

令和4年度市民事業現場訪問(第86回市民事業専門委員会)報告書

- 1 日時 令和4年10月4日(火) 10時00分から16時00分
- 2 目的 水源環境保全・再生市民事業支援補助金を受け、活動している団体の活動現場を訪問し、意見を聴くことにより、活動の実態を把握する。
- 3 訪問先 次の2団体

団体名等	補助金実績等
NPO法人おだわらいノシカネット 理事長 穂田 芳雄 訪問会場：小田原市生涯学習センターけやき	スタンドアップ部門 その他の特別対策事業 (R4) 資機材の購入 (R4)
南足柄市森林ボランティア協議会 会長 鈴木 茂 視察現場：南足柄市広町地区の山林 訪問会場：南足柄市役所	スキルアップ部門 森林の保全・再生事業 (R3～R4)

- 4 出席者 5名(増田委員長、藤井副委員長、青砥委員、石本委員、稲垣委員)

5 概要

(1) NPO法人おだわらいノシカネット

(スタンドアップ部門/その他の特別対策事業及び資機材の購入 申請総額336千円)

小田原市生涯学習センター会議室にて、箱根山地ササの退行状況の把握とニホンジカ捕獲地の検討にかかる実施状況について聞き取りを行った。

【主な聴取内容】

- ・4月から13回の踏査を行い、ササの同定やシカの採食圧の状況を確認した。うち3回は講師として勝山氏(神奈川県立生命の星・地球博物館元学芸部長)が同行した。会員以外の参加者は学生2名(実数)である。
- ・ドローンは、該当機種在庫切れ及び調査に必要な要件を満たす代替機がないため、購入できなかった。したがって、本年度は踏査と定点観察(コドラート調査)で対応している。
- ・コドラート調査候補地としては、足柄万葉公園北部、箱根金太郎ライン(足柄檜山水源林地区)、明神ヶ岳北尾根を検討している。
- ・これまでの踏査では、南足柄市明神ヶ岳のササの食害がひどいので一番心配である。また、足柄峠から丹沢にいたる中間点もシカの生息密度が高く、食圧による枯死が多い。箱根山地の北部及び北東部が特に酷いので、調査結果が出来しだい、環境省などに報告していきたいと考えている。

【主な所感】

- ・説明にあった二子山のササの退行状況は、二子山が通常は立ち入り禁止になっているエリ

アだけに、貴重な情報だったと思う。既に、箱根でも、ところによってはニホンジカの食圧でササの枯死が始まりそうな状況に直面していることがよく分かった。

- 例えば、明神ヶ岳の土壤保全のリスクについて、水源かん養保全につながるということを、一般の方にもわかりやすいように広報（説明）していただけるとありがたい。広報についての切り口を検討、工夫して取り組んでいただけるとよいと思う。
- 中心的な活動をするメンバーが限られており、毎回同じ顔触れで活動している様子が伺える。自分たちの活動をアウトプットできていない。本内容の活動をもっと広く市民に理解してもらい、一緒に参加するメンバーを増やしていく工夫が必要と思われる。
- 事業計画書では「捕獲対策の強化に向け、効果的な捕獲地の選定が求められている。（中略）ササの採食、退行状況の調査を行い、生息密度低下に向け、効率的な捕獲地の検討を行う」としており、調査は捕獲地選定のためと位置付けている。よって、この2つをどのように結びつけるのか団体内で改めて整理しておくことが必要と受け止めた。
- 主に里山で団体が行っているくくりわなによる捕獲を、国立公園内である箱根山地でも行うようになったときは、希少動物の錯誤捕獲を防ぐ方策について十分な配慮が必要である。

(2) 南足柄市森林ボランティア協議会

(スキルアップ部門／森林保全・再生事業 申請額 186 千円)

活動現場である山林（南足柄市広町地区）を見学するとともに、会場にて南足柄市モデル林整備事業の実施状況について聞き取りを行った。

【主な聴取内容】

- 松木沢林道沿の活動場所を視察し、その後、南足柄市役所内会議室にて聞き取りを行った。
- 実施箇所は0.9ヘクタール。昨年度末に植樹を実施したが、そこは、50数年前にゴルフ場造成で表土をとってならした土地で、心土になっており、鍬で歯が立たないほど固いローム層である。そのため、後継木としては、根が横に広がるヒノキを選定し、植樹した。また、シカの食害を防ぐため、保護柵を設置した。
- 協議会の会員は、南足柄市内の方が主だが、市外の方もいる。常時活動は25人位。

【主な所感】

- 森林保全保護について、熱意が感じとれた。しかし、想いの強さを団体内、会員間で共有できているかは疑問である。また、南足柄市役所が今後どの程度、どの位の期間、現在と同様の関わり方をしていくつもりかが不明であった。
- 協議会は市役所、市議会議員、市民の方々がメンバーとなっており盤石な面もあるが、市民事業が希薄にならないよう、市民参加を促して欲しい。
- 造成地の森林化は困難が伴うが、これまで植栽してきた成果を見ると成林が見込めると思う。これは未活着で枯死した苗の後には補植するなど丁寧な対応をしてきた結果だと考えられるので、引き続き取組を進めてほしい。
- 将来計画で、ナラ枯れに対応できるよう広葉樹の樹種転換を考慮しているが、大雄山のスギ巨木林に隣接する地域として在来の森林と違う形の造林をすることは再考の余地がある。



▲NPO 法人おだわらイノシカネットによる活動報告



▲南足柄市森林ボランティア協会の活動現場視察